



図1 全景（南から）

1 はじめに

発掘調査により、岩崎遺跡は、古墳時代中期から後期（5～6世紀）と奈良時代（8世紀後半）、平安時代（9～10世紀）の遺跡であることが分かりました。古墳時代では集落、平安時代では官衙^{かんが}に関連する遺跡であると考えられます。奈良時代の遺物は出土していますが、明確な遺構は見つかっていません。

岩崎遺跡は大山川右岸に立地しています。現在は平坦な水田となっていますが、遺跡南方の丘陵の延長部であることから、以前は周囲よりわずかに高い地形であったと考えられます。

2 遺構（図8 遺構配置図）

古墳時代の遺構は竪穴住居と土坑などが見つかりました。竪穴住居の北側にはカマドが設けられ、北側に排煙用^{えんどう}の煙道も付いています。土坑（図2）からは多数の土器が出土しました。



図2 土坑と出土遺物

いわさき 岩崎遺跡現地説明会資料

2006年8月27日（日）

財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	いわさき 岩崎遺跡
所在地	山形県鶴岡市大字下清水字岩崎
遺跡番号	平成17年度登録
現地調査	平成18年5月8日～平成18年9月15日
調査面積	5,000平方m
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設事業
遺跡種別	集落跡・官衙関連施設
時代	古墳時代・平安時代
遺構	掘立柱建物・掘立柱列・竪穴住居・井戸・土坑
遺物	土師器・須恵器・アメリカ式石鏃 ^{いぐし} ・斎串
調査担当	調査研究員 水戸部秀樹 調査員 渡辺和行
調査指導	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所 庄内教育事務所 鶴岡市教育委員会

平安時代の遺構は、掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}、掘立柱列、井戸などが見つかりました。掘立柱建物の中でも調査区の中央部で見つかった2棟は、柱の配置から倉庫であると考えられます。柱穴に使われた柱がそのまま残っているものも多く見つかっています。中には先を尖らせた杭状の柱もあります。柱の直径はさまざまですが、太いものでは直径が30センチメートルを測ります。

井戸は6基見つかりました。中には幾つかの種類が見られます。井戸3（図6）・5・6は素掘りによるものです。井戸1（図4）は、井戸枠として丸太をくり貫いたものが用いられていました。井戸2（図5）は小型であり、井戸枠は横材が方形に重ねられた状態で組まれていました。井戸4（図7）では、長い板を縦に並べて井戸枠を組んでいました。板は周囲の土の圧力により内側に倒されています。井戸からは坏や、薬壺^{つぎ やっこ}、斎串など多くの遺物が出土しました。

3 遺物

岩崎遺跡では主に三つの時代の遺物が出土しています。まず、古墳時代前期のものと考えられる土師器があり、器種としては小型丸底^{こがたま}埴^なと甕^{こつぽ}（図2・9）があります。また、遺構からではありませんが、^{たてあなじゅうきょ}勾玉や管玉（図10）も出土しています。

次に奈良時代後半（8世紀後半）の遺物と考えられる須恵器^{すえき}が出土して、^{こうだいつきつき}高台付坏



図3 柱穴（柱が残っている）



図4 井戸1（丸太をくり貫いた井戸枠を持つ）



図5 井戸2（小型、横材を使った井戸枠を持つ）



図6 井戸3（素掘りの井戸）

（図13）と呼ばれる器種です。この頃の坏の特徴として、底部にヘラを用いて轆轤^{ろくろ}から器を切り離した痕跡を持つことと、底部と口縁部の直径の差が小さいことなどがあります。ほかに同じ時代の遺物と考えられる円面硯^{えんめんけん}（図12）

と呼ばれる焼物で作った円形の硯が出土しています。円面硯の出土は珍しく、庄内地方ではほかに6遺跡から、田川郡域では2遺跡目の出土となっています。

次に平安時代（9～10世紀）の遺物として轆轤で成形された赤焼き土器の坏（図14）が出土しました。この坏が出土した遺構（井戸3）からは斎串が多く出土しており、何らかの祭祀が行われたと考えられます。また、9世紀の遺



図7 井戸4（縦に板を並べた井戸枠を持つ）

物と考えられる薬壺（図15）が井戸4から出土しています。

そのほかにアメリカ式石鏃（図11）と呼ばれる弥生時代の遺物や近世及び近代の陶磁器などが出土しています。

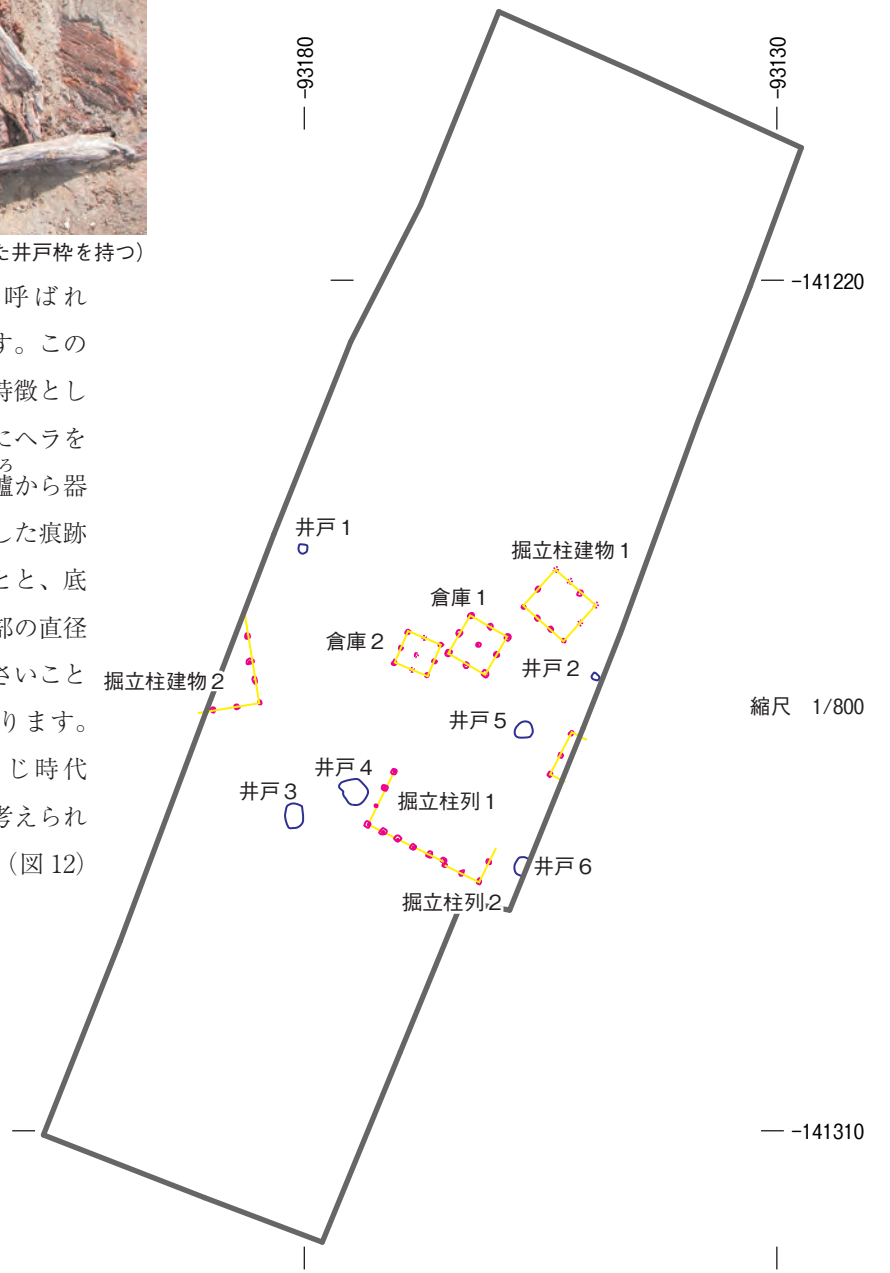


図8 遺構配置図

4 まとめ

岩崎遺跡では、古墳時代前期から中期に集落が営まれました。見つかった住居は1棟のみです。出土した遺物の量から、より多くの住居があったはずですが、すでに失われていました。

奈良時代の遺構は確認されませんでした。円面硯や高台付坏などの須恵器が出土しました。希少な円面硯が出土していることから、周辺に官衙関連の施設があったことが予想されます。

岩崎遺跡では平安時代の遺構、遺物が最も多く見つかりました。倉庫は現在2棟確認されており、やはり官衙関連施設であったと考えられます。古代において岩崎遺跡周辺は出羽郡大田郷と呼ばれていたという説（山形県史 第一巻）があります。そばを流れる大田川の水運を利用し、大田郷から集められた税を収納・輸送する拠点としての倉庫であったのかも知れません。

今回の調査では、遺跡の性格を具体的に示す文字が書かれた資料は出土しませんでした。見つかった遺構・遺物は今後庄内地方の歴史を解明する手がかりとなるでしょう。



図9 小型丸底埴と甕



図10 管玉（左）と勾玉（右）



図11 アメリカ式石鎌



図12 円面硯



図13 高台付坏



図14 赤焼き土器の坏



図15 薬壺